

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	ビジネス実務Ⅳ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：55 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本で社会人として働くうえで必要なコミュニケーション力や文化・習慣等（敬語の正しい使い方やビジネスで使われる言葉）を身につける。また、敬語の意味や使い方を学習しながら、日本社会のあらゆるビジネスシーンで対応きるマナーやルールを身につける。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ビジネスで必要とされるマナーやルールを身につけ、ワークにて内容を理解する。また、日本社会で働くために必要なビジネススキルを身につける。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	あらゆるビジネスシーンで必要とされるマナーやルールを理解する。談話レベルの発話―「敬語や待遇表現」―について、実際の場面を想定し、学生自ら主体的に学べるよう調べ学習等で理解を深め、日本のビジネス社会で使えるようにする。		
到 達 目 標	4 月から日本の社会で働くにあたり、正しい敬語や表現を使えるようにする。また、日本の実社会で働くうえでのルールやマナーを実践できるようにする。 さまざまなビジネスシーンを理解し、感想・意見をまとめ、「書く」というアウトプットを通して、日本語力の定着も図る。また、トピックの背景となる素養・語彙も増やし、ビジネスシーンに対応できるようにする。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	留学生日本で働く人のためのビジネスマナーとルール 特定非営利活動法人 日本語教育研究所 武田聡子他		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	日本語能力試験 V	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美 高橋 真実 小野 美穂子
時 間 数	前期：54 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験 (JLPT) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	日本語能力試験 (JLPT) (N1～N3)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 (JLPT) の合格を目指し、検定 3 週間前より受験級ごとに分かれて対策授業を行う。</p> <p>語彙・文法・読・聴解とテキストに沿って学習を行い、日本語能力試験 (JLPT) の問題演習を行い、確実に合格できるようにする。</p> <p>また、検定前3週間の対策授業では、週に一度の模試を実施する。</p> <p>日本語能力試験 (JLPT) と同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
その他	期末試験は模試の点数を評価の基準にする。		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。</p> <p>細やかな日本語のニュアンス、相手が伝えようとしている本質的な部分の理解をすることができる。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (模試) (95%)、出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「全科目攻略！ JLPT 日本語能力試験ベスト総合問題集」(The Japan Times Publishing)</p> <p>超実践的 JLPT リアル模試 (N1～N3) 日本語能力試験 AJ オンライン株式会社</p>		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		3年
科 目 名	実践ビジネスコミュニケーション I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子 岡崎 良美
時 間 数	前期：45時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本のビジネスに必要な基本的なこと（敬語やビジネスマナー）を身につける。また、敬語の意味や使い方を学習しながら、日本社会のあらゆるビジネスシーンで対応きる実際の会話力を養う。また、中級・中上級の読解力を身につける。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ビジネスで必要とされる構文または談話レベルの日本語力（聴解・発話）と読解力を身につけ、会話練習で日本社会のマナーや会話の仕方を理解する。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	あらゆるビジネスシーンで必要とされる構文または談話レベルの発話―「敬語や待遇表現」―について、実際の場面を設定し、学生自ら主体的に学び、発話の動画を作成し、日本のビジネス社会で使えるようする。 他学科との交流授業の中で、各国の宗教や結婚についての意見を日本人に伝え、グループで発表する。		
到 達 目 標	あらゆるビジネスシーンに応じて、正しい敬語や表現を使うことができる。日本のビジネスマナーを理解し、実社会でのコミュニケーション能力と読解力を高める。 日本人学科との合同授業で、グループでパワーポイントを作成し、発表する。 「留学生だより」の発行（7月）		
成 績 評 価 方 法	期末試験（85%）、確認（スピーキング含む）テスト（10%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	実用ビジネス日本語 話す・書くにつながる！ 日本語読解	株式会社 アルク 株式会社 アルク	

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		3年
科 目 名	Javaプログラミング演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	新谷 敏朗
時 間 数	前期：60時間 / 後期： 時間	実務経験：	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>プログラミング言語として、幅広い分野で使用されている Java を使いこなす能力を身に着けることを目的とする。そしてその能力を裏付ける資格試験に合格することが目標である。内容は文字列表示から始めて、基本データ型による演算、条件分岐や繰り返しなどの制御構造、配列、メソッドと進み、オブジェクト指向の概念を理解し、クラスとオブジェクト、継承、カプセル化、複数クラスを用いたソフトウェア開発等をソースコードの入力・コンパイル・実行をしながら学んでいく。単に資格取得のみならず、実用的なプログラム開発能力が得られるようになるための、数多くの具体的な機能を持ったプログラムを作成する経験を積むようにする。</p> <p>また、学内プログラミングハッカソンで日本人学科（情シス、情スペ）の学生と同等に勝負ができる力を身につける。</p>		
目指す検定・資格	サーティファイ Java プログラミング能力認定試験 3級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	大事なところを強調して、メリハリをつける。学生の理解度に応じた説明をする。予習と復習を毎回していただきたい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	<p>最初は、Web 上で動作するわかりやすい開発環境で、演習を行う。それに慣れてきた段階で、JDK をインストールし、Windows のコマンドプロンプト上で、テキストエディタで作成したソースファイルを Javac や Java などのコマンドを使うやり方に慣れる。最終的には、統合開発環境を使いこなして、効率よくコード入力、コンパイル、実行、デバッグができるようになるように進めていく。また、教科書の章末練習問題によって、理解度を確認し、応用課題を適宜提供しながら、履修学生とのコミュニケーションを密にして、動機づけを図る。最後の3週間は、資格試験対策の演習を重点的に実施する。</p>		
到 達 目 標	<p>Java プログラミング能力認定試験 3級試験範囲の内容を理解する。9月に実施される試験に合格できるように Java に関する能力を修得する。</p> <p>また、学内プログラミングハッカソンで日本人学科（情シス、情スペ）の学生と同等に勝負ができる力を身につける。</p>		
成 績 評 価 方 法	課題提出物（65%）、確認テスト（30%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>スッキリわかる Java 入門 第4版 インプレス</p> <p>スッキリわかる Java 入門 実践編 第4版 インプレス</p>		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 I T システム学科			3 年
科 目 名	データベース演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目	
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	若林 潤一	
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間	実務経験：県内システム会社勤務を経て WEB サービス会社の社長 COO として従事した後独立。Web システムの開発、サービス提供の経験をもとに講義を行う。		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	SQL の基本的な文法及び、正規化の考え方を学習し、SQL が発行できるようになる。リレーショナルデータベース(RDB)の基礎、SQL の基本的な文法及び、正規化の考え方を学習し、SQL で RDB を操作することができる。			
目指す検定・資格	なし			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	座学と実習を組み合わせた複合的な授業展開する。学生は他者をフォローし合って、課題の取り組みを行う。			
そ の 他				
	前 期			
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ SQL の基本文法の理解をする。 ・ 正規化の基本概念の理解をする。 ・ テキストに従い、各章のポイントを学んだ後、章末の練習問題で動作確認を行う。 			
到 達 目 標	情報処理試験の SQL の問題が解ける。 リレーショナルデータベース(RDB)の基礎、SQL の基本的な文法及び、正規化の考え方を学習し、SQL で RDB を操作することができる。			
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、出席率 (5%)			
テ キ ス ト ・ 副 読 本	スッキリわかる SQL 入門 第2版 (インプレス社)			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	JavaScript 演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、SIer での SE・プログラマ(製造・流通系)としての経験を活かし、学生がシステム開発を行っていく上でのコンピュータの基礎的な知識やコンピュータの基礎的な計算方法を修得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JavaScript の基本的な文法を習得する。JavaScript を用いて自動的なアプリケーションを作成する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	座学・演習形式		
そ の 他	特になし		
	前 期		
授 業 の 概 要	JavaScript および jQuery の基本文法を学習する。Web サイトに自動的なパーツや要素を作成しインタラクティブなサイトを制作する。		
到 達 目 標	JavaScript の文法を用いて、ブラウザの表示を自動的に変更するアプリケーションを作成できる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (65%)、制作物 (30%)、出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ いちばんやさしい JavaScript の教本 第 2 版 ECMAScript 2017(ES8)対応 人気講師が教える Web プログラミング入門 (インプレス)		

令和6年度 シラバス

学科・学年	国際ITシステム学科		3年
科目名	IT実践演習	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期 ・後期・通年	担当教員	小野 美穂子
時間数	前期：100時間 / 後期： 時間		
科目の目的と講義内容	CADと製図の基本技術を身につけるため、2次元CAD利用技術者試験（基礎）の合格を目指す。		
目指す検定・資格	2次元CAD利用技術者試験（基礎）		
指導方法及び学生に期待すること	2023年度版 CAD利用技術者試験 2次元2級・基礎公式ガイドブックに沿って講義、問題演習・解説を繰り返し、理解を深める。		
その他			
	後 期		
授業の概要	2次元CAD利用技術者試験（基礎）の合格に向けて、CADシステムを利用する上でのコンピュータ関連の知識や製図の知識、図形の知識を、基礎的かつ幅広く身につける。		
到達目標	2次元CAD利用技術者試験（基礎）合格		
成績評価方法	期末試験（55%）、課題提出（40%）、出席率（5%）		
テキスト・副読本	2023年度版 CAD利用技術者試験 2次元2級・基礎公式ガイドブック 日経BPマーケティング CAD利用者技術試験「基礎試験」練習問題ドリル 365問		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	IT 企業リテラシー I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	通期：49 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で就職するうえで必要な知識や技術（敬語、ビジネス文書、SPI、グループディスカッション）を深める。</p> <p>SPI の問題（非言語分野）を理解し、解けるようにする。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本社会で働くうえで必要な知識を深め、主体的に考えたり学んだりできる力を身につけてほしい。</p> <p>すららネットで自主的に学び、SPI の問題（非言語分野）を理解し、解けるようになってほしい。</p>		
そ の 他	就労ビザ取得に向けて、必要な書類や文書も正しい日本語で書けるようになる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	日本で働く上で必要な知識（敬語、ビジネス文書、SPI、グループディスカッション）を深め、日本社会で活躍できる人財になれるようにする。		
到 達 目 標	正しい敬語を使用し、日本の社会で通用するビジネス文書が書けるようになる。 SPI の問題（非言語分野）を理解し、解けるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	あつという間にまるわかり！SPI 問題集図解&書き込み式 株式会社 長岡書店 すららネット		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3年
科 目 名	経営マネジメント概論Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：30時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、SIerでのSE・プログラマ(製造・流通系)としての経験を活かし、学生がシステム開発を行っていくうえでのコンピュータの基礎的な知識やコンピュータの基礎的な計算方法を修得できるよう講義する。	
科目の目的と講義内容	IT パスポート試験は、情報処理推進機構 (IPA) が実施し、経済産業省が認定する日本の国家試験である。そして、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的とする。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指導方法及び学生に期待すること	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、色々なメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	IT パスポートの勉強に並行して、わからない日本語を調べさせて、日本語力強化もはかる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	基礎理論とアルゴリズム、コンピュータシステム、ハードウェア、ソフトウェアについての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。 目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、IT パスポート試験合格レベルまで引き上げる		
到 達 目 標	IT パスポート試験取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポートに合格できるレベル (総合評価点 600 点) の到達を目指す。		
成績評価方法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書+出る順問題集 (SBCreative)		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	システム制御演習Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	玉置 順一
時 間 数	前期： 時間 / 後期：16 時間	実務経験：機械系大学にて、機械設計・材料力学等の機械系分野を履修後、ソフトウェア企業にて工業系システムエンジニアとして、システム開発の上流工程から下流工程、運用と幅広く従事した経験を活かし、情報系実習指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	企業においては、製造部門ではシーケンス制御装置が多用されており、設計・開発部門では、CAD や CAE など支援ツールを活用して製品開発を行う場面が多くなってきている。本講義では、機械制御の実際と実機を利用して工場の制御システム及び PLC 言語の基礎を学習する		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	本実習では、PLC によるシーケンス制御実習システムの構築・実験を通して、計測・制御の知識・技術を身につける。 ラダー言語の基礎をもとに、プログラムを組み、実際にシステムを動かすことができる。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	配布テキストに基づき、課題実習を行い、その都度提出する。 シーケンス制御システムの構築を行う。		
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. シーケンス制御の基本が理解できる 2. PLC プログラムを作成し、動作を確認することができる 3. ラダー言語の基礎をもとに、プログラムを組むことができる。 		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (90%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	自校作成		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	CAD 演習Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	玉置 順一
時 間 数	前期：時間 / 後期：30 時間	実務経験：機械系大学にて、機械設計・材料力学等の機械系分野を履修後、ソフトウェア企業にて工業系システムエンジニアとして、システム開発の上流工程から下流工程、運用と幅広く従事した経験を活かし、情報系実習指導を行う。	
科目の目的と講義内容	CAD 分野に応じた専門的な学びの CAD 設計分野を実践的に学ぶ		
目指す検定・資格	2次元 CAD 利用技術者試験（基礎）		
指導方法及び学生に期待すること	実践応用演習を通じ戦力として活躍できる人材を目指す。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	AutoCAD を利用して、設計図の作図に必要な基礎知識の習得と作図技術の習得し、一から設計図を起こす事ができる。		
到 達 目 標	AutoCAD の基本操作を理解し、設計図に必要な基礎知識を習得する。設計図を一から作図する事が出来る。		
成 績 評 価 方 法	課題制作物（50%）、中間発表（45%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	はじめて学ぶ AutoCAD 作図・操作ガイド、自校作成		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3年
科 目 名	接遇演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：45 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	お茶の出し方や名刺交換等のビジネスマナー、冠婚葬祭の基礎知識、食事のマナーなど、社会人として必要なビジネスマナー・大人として必要なマナーすべてを習得する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	座学だけでは社会に出て実践するときに応用が利きにくいいため、演習を行い、実際に経験し物に触れて体感的に学ぶことを取り入れていく。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	<p>食事のマナー・テーブルマナー、名刺交換等、すぐに役立つ内容を、座学と実習の両面から学ぶ。</p> <p>冠婚葬祭を中心に基礎知識を学び、祝儀・不祝儀袋の記入等の実践的な学習も行う。</p>		<p>お茶出しについては、お茶の提供から頂き方までを実践的に学ぶ。</p> <p>手紙の書き方を学ぶ。</p> <p>ビジネス文書作成方法を学ぶ。</p> <p>訪問のマナーお中元お歳暮のマナーを知る。</p>
到 達 目 標	<p>面接時等に採用担当者から名刺をいただいた際に、名刺を正しく扱うことができる。</p> <p>テーブルマナーの基本的なマナーを学び、フルコースをいただくことができる。</p> <p>冠婚葬祭の代表的な事柄を知る。</p> <p>祝儀袋等を正しく記入することができる。</p>		<p>お客様に対してお茶出しが実践できる。また、お茶とお菓子を出された際に、マナーを守っていただくことができる。</p> <p>時と場合に応じた手紙の書き方、ビジネス文書の作成方法を知り、実践できる。</p>
成 績 評 価 方 法	・ 期末試験 (95%)、出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 実社会で求められる ビジネスマナー 専門教育出版 井上 洋子 著 ・ 講師作成資料配布		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	IT 企業リテラシー II	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期： 時間 / 後期：50 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本の IT 関連企業で就労する上で、新入社員から中堅社員としてスムーズなキャリアパスができるように、専門的な企業形態や仕組みを知る。</p> <p>「システム開発」「Web システム」「システム制御」「CAD」の各分野について、就職先の職種に合った分野の学習を主体的に進め、自らが働く会社や業界について、研究を深める。</p> <p>3年間の学校生活や就職先の職種で必要とされる知識をまとめた動画を作成する。</p> <p>SPI の問題（言語分野）を理解し、解けるようになる。</p>		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本と母国の両面を知り、各自の就職先の職種内容について理解を深めるために、自主的な学びができるように指導する。</p> <p>それぞれ就職したい分野についての仕事の理解と実践ができるようになる。</p>		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	留学生が日本の IT 関連企業に就職をし、仕事をしていく上で有益となる知識を身につけ、自己発信力や傾聴力をさらに伸ばし、社会人基礎力などを理解していく。		
到 達 目 標	<p>「システム開発」「Web システム」「システム制御」「CAD」の各分野について、就職先の職種に合った分野の学習を主体的に進め、自らが働く会社や業界について、研究を深め、プレゼンテーションができる。</p> <p>3年間の学校生活を振り返り、それぞれの職種に合った分野の学びをまとめた動画を作成する。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）、出席率（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>あつという間にまるわかり！SPI 問題集 図解&書き込み式</p> <p style="text-align: right;">株式会社 長岡書店</p>		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3年
科 目 名	コンピュータシステムⅢ	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	情報系教師
時 間 数	前期： 時間 / 後期：90時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT パスポート試験は、情報処理推進機構（IPA）が実施し、経済産業省が認定する。日本の国家試験であり、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的に、目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、検定取得レベルまで引き上げる。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、色んなメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	11月での IT パスポート試験を目指す。 IT パスポート試験の勉強に並行して、わからない日本語を Quizlet 等に入力させ、日本語力強化もはかる。		
	後 期		
授 業 の 概 要	技術戦略マネジメント、システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントとシステム監査についての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。 プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。		
到 達 目 標	IT パスポート試験取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポート試験を取得できるレベルの到達を目指す。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（65%）、確認テスト（30%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書＋出る順問題集（SBCreative）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	ビジネス実務V	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期： 時間 / 後期：45 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	ビジネス実務IVに引き続き、日本の社会で働く上で必要なビジネスのルール、社内・社外のマナーを理解し、あらゆるビジネスシーンに対応できる力を身につける。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本社会で働く上で必要な知識を深め、主体的に考えたり、実践したりする力を身につけてほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	あらゆるビジネスシーンで必要とされるルールやマナーを理解し、談話レベルの発話—敬語や待遇表現—について、実際の場面を想定できるようになる。学生自ら主体的に学べるようグループワークで実践し、日本のビジネス社会で使えるようする。		
到 達 目 標	ビジネス実務IVに引き続き、4 月から日本の社会で働くにあたり、正しい敬語や表現を使えるようにする。日本の実社会で働くうえでのコミュニケーション能力を高める。日本の会社で通用するようなコミュニケーション力で、自分の意見が正しい日本語で発言できるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	留学生日本で・働く人のためのビジネスマナーとルール 特定非営利活動法人 日本語教育研究所 武田聡子他		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	実践ビジネスコミュニケーションⅡ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 31時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	実践ビジネスコミュニケーションⅠに引き続き、敬語やビジネスマナー等、日本のビジネスに必要な基本的なコミュニケーション力を身につける。また、敬語の意味や使い方を学習しながら、日本社会のあらゆるビジネスシーンで対応きる実際の会話力を養う。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	実践ビジネスコミュニケーションⅠに引き続き、ビジネスで必要とされる構文または談話レベルの日本語力（聴解・発話）を身につけ、日本の社会において、社会人としてきちんとした文章が書け、話せるようにする。日本で就職してから実際の場面で役に立つマナーやルールについて理解し、実践できる。 日本人学生との合同授業において、積極的に意見を述べ、協働して発表ができる。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	あらゆるビジネスシーンで必要とされる構文または談話レベルの発話—敬語や待遇表現—について、実際の場面を設定し、学生自ら主体的に学べるようグループワークで実践し、日本のビジネス社会で使えるようする。 日本人学生との合同授業において、積極的に意見を述べ、協働して発表ができる。		
到 達 目 標	あらゆるビジネスシーンに応じて、正しい敬語や表現を使うことができる。日本のビジネスマナーを理解し、実社会でのコミュニケーション能力を高める。		
成 績 評 価 方 法	提出課題（75%）、確認テスト（スピーキング含む）（20%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	実用ビジネス日本語 株式会社 アルク		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	卒業研究	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：時間 / 後期： 110 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>システム開発、アプリケーション開発、制御のチームに分かれ、ビジネス系から出された案をもとに IT を使用してどんな解決ができるか企画し、開発、テスト、プレゼンテーションを行い、自分の立ち位置を考えてメンバーと協力しながら納期限内に完成させる。</p> <p>3年間の集大成として、日本人学生との合同授業で「ビジネス系」×「情報系」でそれぞれの業界の抱えている問題を解決することを目標として、学科コラボに取り組み他学科と協働する。</p>		
目指す検定・資格	なし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	システム開発、アプリケーション開発、制御を行う組分けから学生自身が決め、それぞれのチームにおいて日本人学科の学生たちと話し合いの中で作業分担を行い、それぞれの分野における仕事の経験をする。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	システム企画、基本設計、プログラミングの工程を経てシステムを完成させる。		
到 達 目 標	<p>システム開発の一連の工程を経験することで、開発の要点や独力で開発を進める技術力を身につける。</p> <p>また、チームで開発を行うことでチームワークを身につける。</p>		
成 績 評 価 方 法	課題制作物 (50%)、中間発表 (45%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	なし		